
満足した豚よりも不満足な人間である方がよい。

天窪 雪路

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

満足した豚よりも不満足な人間である方がよい。

【Nコード】

N8666P

【作者名】

天窪 雪路

【あらすじ】

私はもう、世の中が汚れていくあり様を見たくないのよ。

僕はピアノの演奏を止めた。

それまで僕を支配していたはずのメロディはすっかり失われていた。辺りは静寂に包まれていた。つい先程まで運動を続けていた両腕も両足も、鍵盤の上でダンスを踊っていた指先も何もかも、メロディとともにすべてが停止していた。

目の前には一台のピアノがある。無論、ハンマーの運動もなければ、弦の振動もない。すべてが止まっていた。

それは僕に永遠を思わせた。物事の不変性は即ち永続性を感じさせる。

思い出もそのようであればいいと思う。あの時のまま、あの美しい景色のまま変わることなく留まり続けて欲しいと思う。

そして、僕は気付いてしまった。この演奏を続ければ続ける程、その旋律の移り変わりに僕は苦しみ続けねばならないのだ。

コンクール課題曲であったショパン練習曲第3番ホ長調の練習をしていた時、僕のピアノの先生であり、そしてキミのお母様でもある人の悲鳴が聞こえたのだっただね。

その声はどのような悲愴をも超えて悲しくあつた。先生の脇で、キミはその美しい顔から血を流して座りこんでいた。キミは自ら、キミのあの透き通るように美しいブラウンの瞳を剝り抜いたのだ。

「私はもう、世の中が汚れていくあり様を見たくないのよ」

やがてキミはこうも言った。

「本当ならね、世界中の悲しい声を聞くことになつて、私はもう耐え難いほどに幻滅しているのよ。」

だから、何度この耳も突こうと思つたことか。でも、光を失つても音を失わなかつたのは、あなたのピアノが聞きたかつたからなの。私、好きよ。あなたの演奏。アシュケナージよりもね」

「それは言い過ぎだよ」

キミは僕の演奏を愛してくれたが、僕の演奏は束の間の安らぎをつくることくらいはできたようだが、そんなキミを十分に癒すことはできなかつた。キミはまさに眠るようにしてこの世を去つた。

僕はキミが死んで以来、ピアノに向かつても頭の中でしかシヨパンを奏でることができない。あの頃の僕は、ある意味ではもしかするとアシュケナージよりも雄弁にシヨパンを奏でたのかも知れないが、今となつてはそれも想像の世界の中においてでしかない。

だから僕はぼんやりとピアノを見つめる。

目の前には一台のピアノがある。無論、ハンマーの運動もなければ、弦の振動もない。すべてが止まっていた。

それは僕に永遠を思わせた。物事の不変性は即ち永続性を感じさせる。

思い出もそのようであればいいと思う。

あの時のまま、あの美しい景色のまま変わることなく留まり続けて

欲しいと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8666p/>

満足した豚よりも不満足な人間である方がよい。

2011年1月15日21時33分発行